

輝き続ける世界都市横浜の実現に向けて

横浜市都心臨海部再生マスタープラン

概要版パンフレット

2015年2月

横浜市



1. 都心臨海部再生マスタープランの策定趣旨

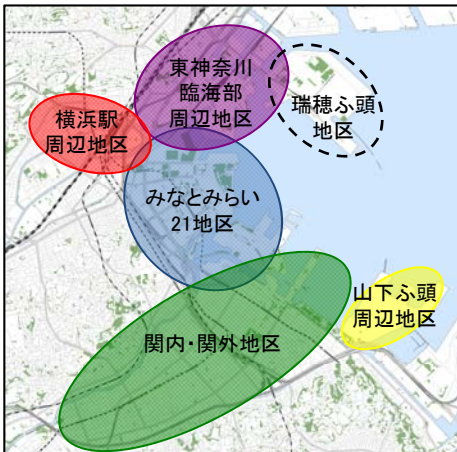
なぜ今、都心臨海部再生マスタープランが必要なのか

人口減少・超高齢社会の到来、地球温暖化や災害に強いまちづくりへの対応など、社会状況が大きく変化する中、横浜市の更なる成長・発展のためには、都心部の機能強化が不可欠です。そのため、**将来にわたり輝き続け、魅力にあふれた”世界都市”の顔としての都心臨海部を形成するため**、中長期を見据えた都心臨海部再生マスタープランを策定します。

なお、マスタープランの目標年次は2050年（第一段階は2025年）とします。

都心臨海部の範囲

横浜駅周辺地区、みなとみらい21地区、関内・関外地区と、それら従来の横浜都心に隣接し、かつ、横浜最大の資源である「港」に面しているなど、都心に必要な新たな機能や施設の受け皿となるポテンシャルを有する山下ふ頭周辺地区と東神奈川臨海部周辺地区を加えた5地区を計画の範囲とします。



※ 瑞穂ふ頭地区については、都心臨海部に隣接し広大な面積を有しますが、米軍と返還合意されていないため、返還後の活用について、今後検討します。

■ 横浜駅周辺地区

日本有数のターミナル駅である横浜駅を中心とする地区であり、国際都市の玄関口にふさわしいまちづくりを進めています。



■ みなとみらい21地区

横浜の自立性の強化等を目的に整備された新しい街であり、業務・商業機能、MICE拠点等が立地し、多くの人々が訪れています。



■ 関内・関外地区

開港の歴史が残る地区ですが、近年、業務・商業機能が相対的に低下しており、課題解決に向けたまちづくりが進められています。



■ 山下ふ頭周辺地区

現在は、都心臨海部における新たな賑わい拠点の形成に向けて、再開発を推進するため、基本計画の検討を進めています。



■ 東神奈川臨海部周辺地区

神奈川台場の遺構や、横浜市中心卸売市場が立地しており、現在は、駅周辺の再開発や面整備の検討が進められています。



都心臨海部の重要性

都心臨海部は、多くの市民や観光客が訪れる港町横浜を象徴するエリアです。また、横浜経済の中心を担うエリアでもあり、現在でも人口や事業所数、従業員数が伸びているなど、これまでのまちづくりが一定の成果をあげている状況にあります。

一方で、概ね過去10年間で、年間商品販売額や売場面積1㎡あたりの販売額が大きく落ち込んでおり、対応に取り組む必要があります。

<都心臨海部の統計データ>

	都心臨海部	概ね過去10年間の推移	都心臨海部が占める割合(都心臨海部/横浜市)
面積	約942ha	—	約2.2%
人口*1	約11万人	約3万人 増	約3.0%
人口密度	約117人/ha	約1.4倍 増	約1.4倍
世帯数*1	約7万世帯	約2万世帯 増	約4.1%
外国人人口*2	約7千人	約500人 増	約13.2%
事業所数*3	約1万8千社	約600社 増	約14.6%
従業員数*3	約35万人	約7万人 増	約22.6%
年間商品販売額*4	約3.0兆円	約1.1兆円 減	約30.6%
売場面積*4	約53万㎡	約11万㎡ 増	約18.4%

*1：横浜市住民基本台帳（平成15年1月31日、平成25年1月31日）より

*2：国勢調査（平成12年、平成22年）より

*3：事業所・企業統計調査（平成13年）、経済センサス基礎調査（平成21年）より

*4：経済産業省 商業統計調査（平成9年、平成19年）より

2. 都心臨海部強化に向けた考え方

2050年に向けたまちづくりの視点

2050年に向けたまちづくりにおいて「**人々に選ばれる都心となる**」ことが、横浜の活力を高めていくうえで重要となります。そのため、都心臨海部では2050年に向け、これまでのまちづくりではぐくまれてきたポテンシャルを生かし、横浜独自の魅力を更に伸ばすとともに、人々に選ばれるためのまちづくりを戦略的に展開し、活力ある都心の形成を目指します。

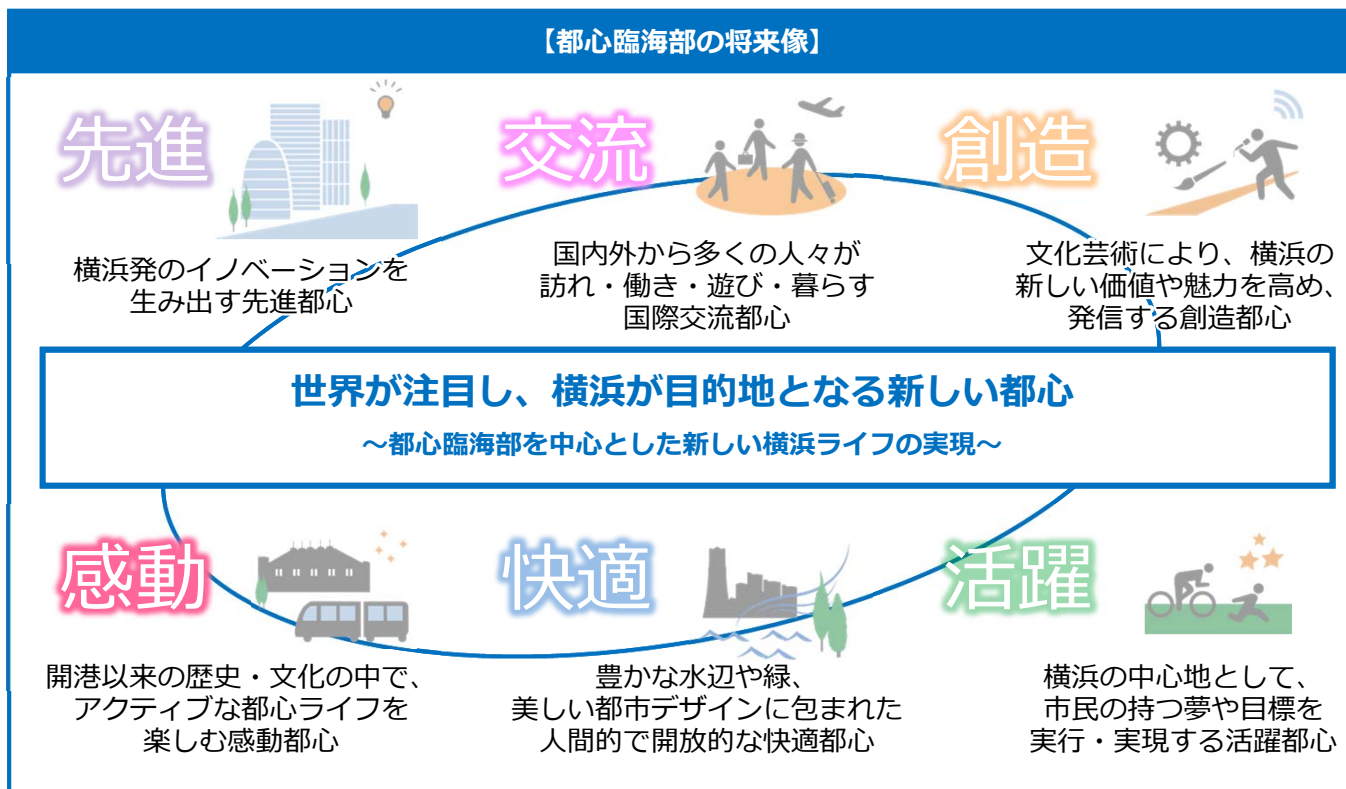
また、それに向けた「将来像」を描くとともに、実現に向けた「**3つの基本戦略**」と「**5つの施策**」に基づくまちづくりを展開していきます。

<都心臨海部の特性>

伝統	開港以来の進取の気概に基づく 先進的で横浜らしいまちづくりを展開	立地特性	首都東京や京浜臨海部に近接する 優れたビジネス環境
資源	多様な人々を惹き付ける横浜独自の資源 歴史・文化 都市空間 都心機能 賑わい・市民活動	立地特性	美しい海や山々など、 健康的で生活に潤いをもたらす周辺環境
		総合力	『 居住 』『 環境 』の高い評価 『 経済 』『 文化・交流 』の低い評価

都心臨海部の将来像

2050年に向けた社会状況の変化へ対応し、「人々に選ばれる都心」となるため、都心臨海部の目指すべき将来像を以下のように定めます。



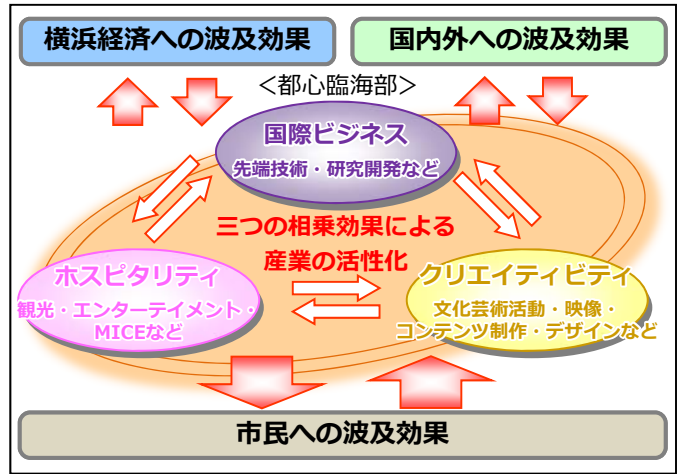
3. 将来像の実現に向けた3つの基本戦略

基本戦略1 次の時代の横浜の活力をけん引するビジネス・産業づくり

都心機能の中心を担う業務・商業機能に加え、「国際ビジネス」、「ホスピタリティ」、「クリエイティビティ」の三つの視点から、都心機能の強化に取り組むことで、横浜発のイノベーションとなるビジネス創出や、創造的産業の振興など、次の時代の横浜の活力となるビジネス・産業の活性化を図ります。

また、先進的な情報通信技術を活用するとともに、産業のグローバル化に対応するため、様々な産業を支える高度な人材育成に取り組みます。あわせて、様々な社会問題などに対する先進的な取組を、アジア諸国をはじめ、世界各国にプロモーションしていきます。

＜都心機能強化による相乗効果・波及効果のイメージ＞

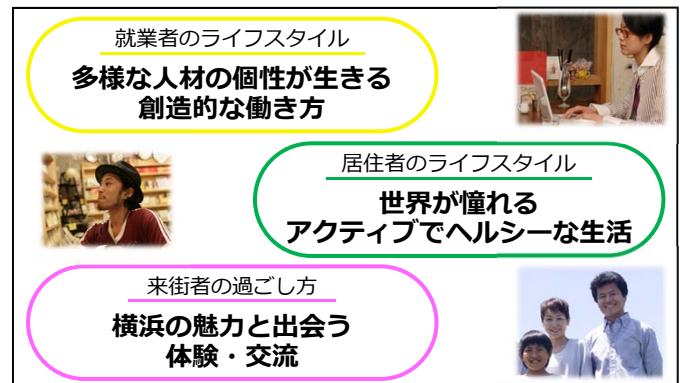


基本戦略2 豊かな創造力・市民力が息づく横浜スタイルの暮らしづくり

都心臨海部には、多くの横浜市民が暮らししており、それ自体がまちに人を惹き付ける資源となっています。また、文化芸術やスポーツなど、人と人とを結び付ける資源も集積しています。

これらの特性を生かし、多様なコミュニティの育成や、活動・交流の更なる活性化を図ることで、都心臨海部ならではのライフスタイルを実現します。

＜都心臨海部が目指す将来のライフスタイル＞



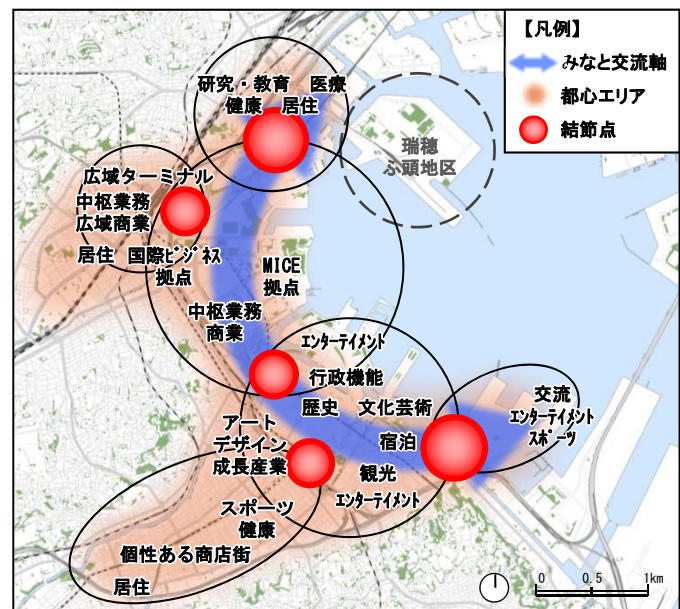
基本戦略3 個性豊かなまちの魅力をつなぎ港と共に発展する都心づくり

都心臨海部5地区や、それぞれの地区の魅力をつなぎ合わせる「みなと交流軸」の形成と、「地区の結節点」における連携強化を重点的に進め、都心臨海部5地区の一体的なまちづくりにより、港と共に発展する横浜ならではの都心を形成します。

＜みなと交流軸の形成による狙い＞

- ① 魅力的な水辺空間の創出により、港町としてのプレゼンスを高める。
- ② 横浜の活力をけん引するビジネス・産業や、横浜スタイルの暮らしをはぐくむ舞台となる。
- ③ ウォーターフロントエリアの魅力増幅や連携強化により、横浜に多くの来街者を迎え入れ、地域全体の活性化を図る。
- ④ まちが一体となることで更なる魅力を発揮し、国内外に横浜ブランドを強力に発信する。

＜機能配置とみなと交流軸・結節点の配置イメージ＞



4. 基本戦略に基づく5つの施策

施策

1

-世界中の人々を惹き付ける拠点・空間の形成-

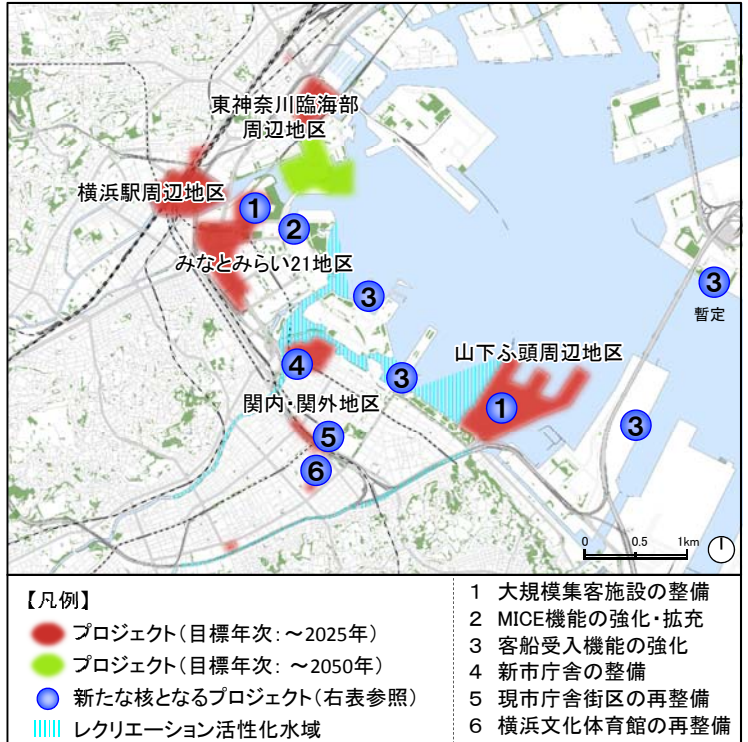
ビジネス・生活環境の充実と併せて、世界から様々な都市活動の担い手に選ばれるため、港や個性豊かな界隈等の活用や、パブリックスペースの利活用など、既成概念にとらわれない空間活用を積極的に進め、創造性豊かな拠点・空間づくりを進めます。

また、取り組みにあたって、官民パートナーシップの活用やIR(統合型リゾート)の導入などについて検討します。

■主な取り組み内容

- 多様なビジネス・生活環境の整備
- 都市デザイン活動によるまちづくり
- 個性豊かな界隈の魅力向上
- 世界有数の美港にふさわしい景観形成
- ユニークベニューやナイトライフの充実
- 新たな核となるプロジェクトの推進

<将来のプロジェクト配置>



○大規模集客施設とIR(統合型リゾート)のイメージ

<p>文化芸術系</p>	<p>商業系</p>
<p>スポーツ系</p>	<p>カジノ施設</p>

※ IR(統合型リゾート)とは、カジノ施設及び会議場施設、宿泊施設、大規模集客施設その他の観光の振興に寄与すると認められる施設が一体となっている施設を指します。

○まちの資源を生かした拠点・空間イメージ

歴史的建造物の活用

港を意識したデザインによる空間づくり

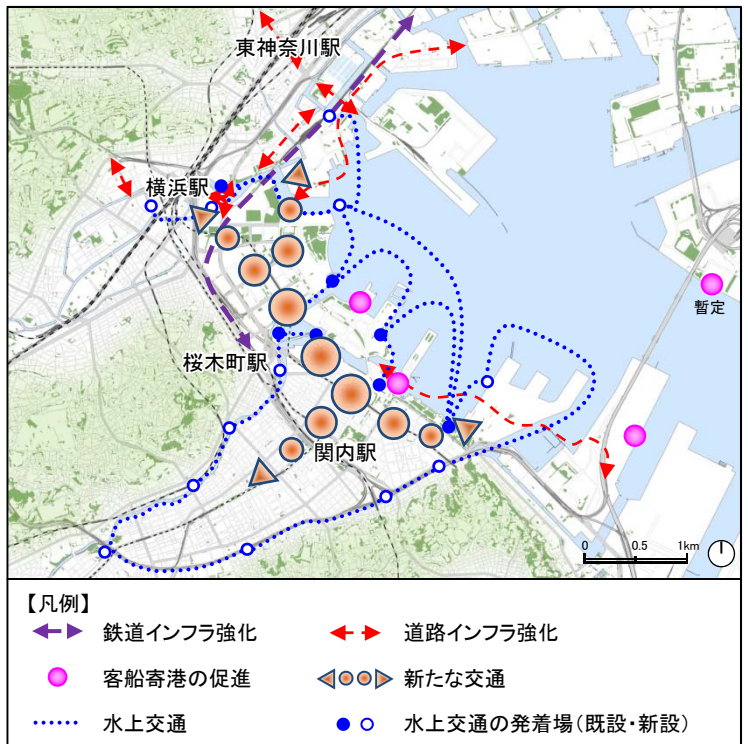
公共交通や歩行者、自転車を中心とした交通体系を強化・拡充し、移動自体が楽しく感じられるようなまちづくり、ネットワークづくりを展開し、地域全体の回遊性を高めていきます。

その中で、今後の開発状況等を踏まえながら、まちの賑わいづくりに寄与する新たな交通の導入や、水上交通ネットワークの拡充により、更なる観光客の呼び込みや交流人口の増加、まちのホスピタリティの向上を図ります。

■主な取り組み内容

- 新たな交通の導入
- 道路・鉄道インフラの強化・拡充
- 客船寄港の促進、水上交通の強化・拡充
- 魅力的な歩行者ネットワークの強化・拡充
- 行動範囲を広げる交通手段の強化・拡充

<強化・拡充を図る主な交通インフラのネットワーク>



○新たな交通の導入イメージ

LRT(次世代型路面電車システム)



連節バス



写真出典：公益社団法人日本交通計画協会

ロープウェイ



写真出典：公益社団法人日本交通計画協会

○幅広い交通手段による回遊性づくり

水上交通ネットワークの強化・拡充



パーソナルモビリティの強化・拡充



歩いて楽しい賑わいある街並みの形成



-世界を先導するスマートな環境の創出-

都市と水際線がつながる都心臨海部ならではの貴重な都市環境を生かした、豊かな水と緑づくりに取り組みます。

また、省エネルギー化に配慮した計画的なまちづくりや先進的な環境技術の導入等に取り組み、世界の環境都市づくりのモデルケースとなる次世代の環境づくりに取り組みます。

■主な取り組み内容

- 横浜の風格を高める水と緑づくり
- 港内の水質浄化や生物多様性を高める取り組み、親水空間の整備
- 風の道を生かした環境づくり
- 低炭素化・省エネルギー化の取り組み
- 先進的な環境技術の導入
- 市民の環境意識を高める取り組み

○横浜の風格を高める水と緑づくり

水際線の水と緑の景観づくり



四季を感じる多様な花々等による植栽



○低炭素化・省エネルギー化の取り組み

環境未来都市を先導するみなとみらい21地区



太陽光発電等の活用



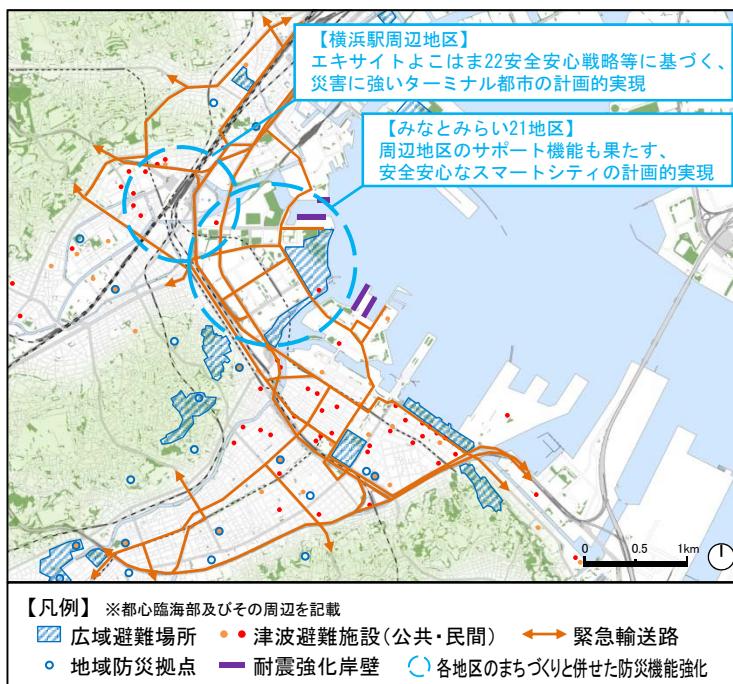
-災害に強い都心臨海部の実現-

多くの人々、企業に選ばれるため、また、災害発生時の市全体の迅速な復興をけん引するため、地震や津波等に対する更なる防災対応力の向上に取り組みます。また、企業等の事業継続を支えるライフラインの耐震強化等や、帰宅困難者対策等の推進を図ります。

■主な取り組み内容

- 核となる施設整備と併せた防災拠点の形成（帰宅困難者対策の推進等）
- 地域防災力の向上（津波避難施設や避難経路の確保、耐震強化岸壁の配置、電線類の地中化、ライフラインの耐震強化等）
- 防災意識の啓発
- 横浜駅周辺地区・みなとみらい21地区における防災機能強化

<防災・減災に向けた取り組み>



あらゆる人々が都心臨海部の活動に参画しやすい仕組み・体制づくりに取り組み、活発な都市活動を展開します。

また、あらゆる人々が地域とつながり、安心して楽しみながら暮らせるよう、様々なきっかけを通じた多様なコミュニティづくりを展開します。

■主な取り組み内容

- エリアマネジメントの視点から地域の更なる魅力向上に向けた活動を推進
- エリアマネジメント活動を促進するための仕組みづくり
- シティ・セールス・プロモーションに取り組むような広域的な体制づくり
- 都心臨海部に愛着を持ち、様々な活動でつながる人・コミュニティづくり

○都心臨海部ならではの都市活動・コミュニティづくり

文化・芸術・スポーツ等の市民活動を促進



Photo by Yasuyuki Kasagi
写真出典：黄金町エリアマネジメントセンター

市民・事業者・行政が一体となったまちづくり活動



平成27年3月（発行）

- 編集・発行 横浜市都市整備局企画課
- 〒231-0017 横浜市中区港町1丁目1番地
- 電話：045（671）3954
- FAX：045（664）4539
- ホームページ：http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/kikaku/toshinmp/

